

# 秘書室システム「Olive」新バージョン (Ver 3.0) 紹介



マーケティング本部 ソリューション営業部 酒井 俊之

## 1. はじめに

秘書室システム「Olive」は、会社役員の秘書業務に特化したグループウェアであり、お客様から好評をいただいているロングラン製品である。しかし、発売以来7年あまりが経ち、その間には、IT革新やインターネットの普及など、Oliveシステムを取り巻く環境が大きく変化してきた。

そこで、この変化に対応するべく、Oliveは1999年11月に新バージョン(Ver 3.0)をリリースした。

本稿では、この「Olive Ver 3.0」(以降、Olive3.0)の特徴と機能を紹介する。

## 2. バージョンアップにおける開発のコンセプト

Olive3.0は、最新ITに対応することと、既存ユーザーの要望をフィードバックし、より多角的な支援機能を組み込むことに主眼を置いて開発を行った。その結果、機能拡充と操作性、拡張性、サポートの容易性の向上を実現し、さらにスムーズ、かつセーフティな秘書業務の遂行を可能にした。

### 2.1 最新技術への対応

Olive3.0の推奨稼働環境は次の通りである。システム構成を図1に示す。

- ・サーバー CPU: Pentium Pro200MHz 以上  
NOS: WindowsNT4.0  
インストール時に必要な HDD 容量: 約1GB
- ・クライアント CPU: Pentium133MHz 以上

OS: WindowsNT 4.0 Workstation、  
Windows95/98

- ・データベース Oracle 8 Enterprise Edition、  
Oracle 8 Workgroup Server、  
SQL Server7.0

#### (1) WindowsNT 環境に正式対応

クライアントPCでもWindowsNT4.0を正式にサポートし、今後はWindows2000にも対応予定である。また、開発言語はVisual Basicの最新版 Ver 6.0を採用した。

#### (2) Web 対応

Webでのスケジュール検索機能を追加した。さらに、将来的にはすべての機能をWeb対応とする予定である。

#### (3) GroupWare との連携

デファクト・スタンダードなグループウェアとの連携が可能となり、Olive3.0ではLotusNotesとの連携が可能となった。Microsoft Exchangeについては検証中である。

#### (4) SQLServer のサポート

前のバージョンではデータベースはOracleのみのサポートであったが、Olive3.0よりSQLServerも対応可能とした。

#### (5) Terminal Server (Thin Client) での稼働対応

クライアントPCに負荷のかからないシステム環境を実現し、低いスペックのPCでもストレスなく稼働できる。PCはWindowsエミュレータとして動作するので、メモリ増設等は不要である。また、クライアントとサーバーを接続するツールとしてMetaFrameを採用した。

## 2.2 将来の拡張を考慮した設計

### (1) 容易なモジュールの追加

Olive3.0では、各機能が独立した11のモジュールとして

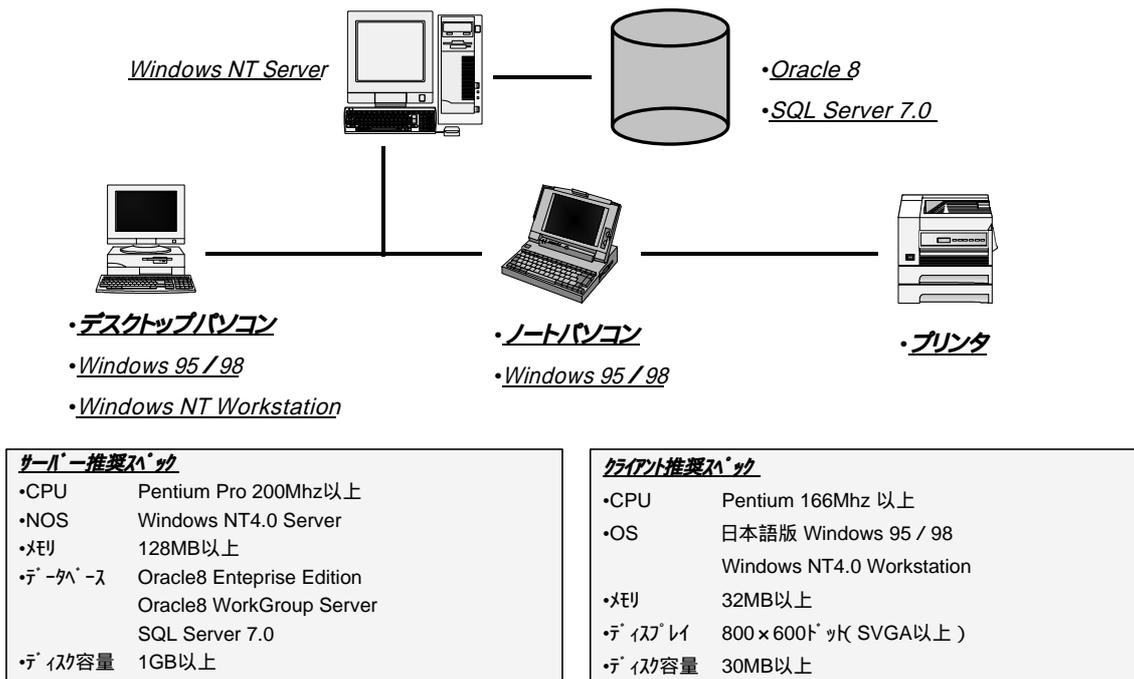


図1 システム構成

コンポーネント化され、今後の新たな機能拡充によるモジュール追加も容易に行える。

## (2) バージョンアップを意識した設計

バージョンアップを容易に実施できるよう考慮した仕様設計を行った。サーバーやデータベースの分散配置にも対応し、バージョンアップ等を容易に実現できる。

## 2.3 サポート工数の削減

### (1) 開発支援ツールを用いた開発

プログラムソースの管理が容易な Hot Document (セントラルコンピュータサービス社製) を採用した。これにより、プログラムと仕様書の矛盾が発生しないため、プログラム管理の工数を削減できた。

### (2) プログラムの自動配信機能の提供

バグ等の対応プログラムを自動的に配信できる機能を提供している。

## 3. 旧 Version からの主な改善点と機能追加

### 3.1 セキュリティの強化

#### (1) スケジュールのセキュリティ

スケジュール情報のアクセス権限を利用者に応じて、秘書 (利用者) と役員 (管理対象者) 間の 1 対 1 で、簡易から強固まで 6 段階のセキュリティレベルが設定できる。これにより、きめ細かなスケジュール公開 / 非公開の設定が可能となった。

#### (2) 個人情報のセキュリティ

個人情報の非公開機能を追加し、相手先の情報ごとにセキュリティの設定をかけることが可能となった。

### 3.2 慶弔贈答管理の全面改定による機能強化

今までの役員のスケジュールを主とした管理ではなく、慶弔 / 弔事に伴う具体的なイベント、および対象となる相手先からの管理機能を追加した。さらに、電報、贈答品などの各種手配状況の管理機能も追加した。

### 3.3 コミュニケーション機能の搭載

利用者間の簡易コミュニケーションを実現する、メッセージ配信や掲示板の機能を新たに搭載した。また、利用者同士で柔軟に使用方法を決められ簡単に利用・参照できる掲示板機能を提供する。

### 3.4 モジュールのコンポーネント化

各機能モジュールが独立した 11 のコンポーネントからなる。これにより、ユーザーが利用する機能を自由に選択でき、メニュー表示を変更するなど、組織や業務に適したカスタマイズを容易に実施できる。また、新規モジュールの追加も容易である。モジュール構成は次の通り。

- モジュール構成：スケジュール管理、個人情報管理、印刷書式設定、会議室管理、慶弔・贈答管理、配車管理、接待場所管理、入室管理、To Do リスト、来訪者管理、Olive メール機能

### 3.5 デザインの刷新と操作性の向上

#### (1) デザインの刷新

ユーザー要望を大幅に取り入れ、各機能のメニュー画面のデザインやボタン配置を見直して、ユーザー・インタフェースを各段に向上した。

#### (2) 操作性の向上

操作性に配慮したボタン配置とし、さらに画面を拡大して見やすくし、デザインも改善した。

#### (3) 納品物の改善

Olive3.0より提供媒体のCD-ROM化、およびマニュアル等のビジュアル化を図った。特にマニュアルについては、ユーザー手引き書として、必要な情報をすぐに見付けられるようにインデックス付けをし、視覚優先で読み進められるように配慮した。

### 3.6 外部モジュールとの連携強化

#### (1) 個人情報データの交換

外部アプリケーション（筆まめ等の住所録ソフト）とのデータ交換を可能とするためCSV形式のファイルを入出力できるようにした。

#### (2) スケジュール情報

LotusNotesのスケジュール管理機能との連携が可能となった。Oliveへ登録したスケジュールデータをLotusNotesスケジュールへ自動的にエクスポートできる。

### 3.7 その他

期間スケジュール機能を提供し、1つの登録スケジュールに対して、内訳となる詳細なスケジュールを親子関係で登録が可能となった。

## 4 . Olive のシステム概要

### 4.1 システムの体系

Oliveでは、役員活動をサポートするために必要な情報を体系化して管理することで、日々の情報の蓄積・利用、および共有化を強力に支援する。Oliveの基本システム体系を図2に示す。

### 4.2 システムの概念

Oliveでは、スケジュール管理機能を中心として、次の各機能が効率的に連携して動作する環境を構築している。

- ・顧客情報、面談履歴との連携
- ・会議室 / 応接室、社有車の手配
- ・接待場所の情報参照
- ・慶事 / 弔事 / 贈答品の管理、情報連携
- ・来客の管理

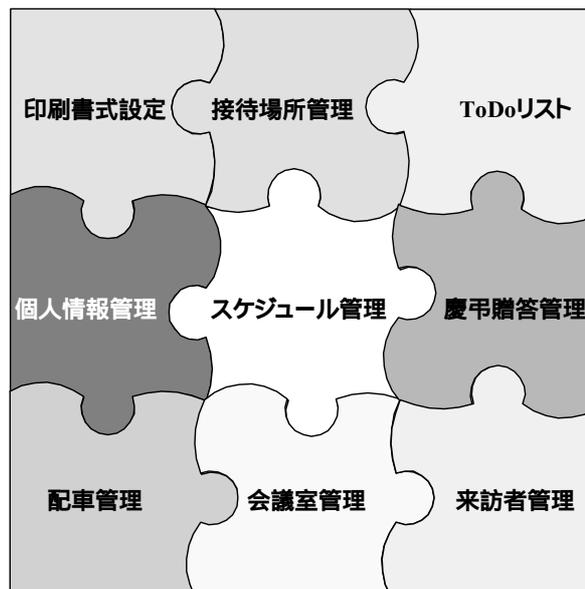


図2 基本システム体系

## 5 . Olive の機能詳細

### 5.1 セキュリティの設定

スケジュール情報のアクセス権限（セキュリティ）を利用者に応じて、秘書（利用者）と役員（管理対象者）間の1対1で、6段階の設定が可能である。Olive3.0のセキュリティレベルを表1に示す。

表1 セキュリティレベル

レベル1	役員スケジュールの登録/参照が行える。
レベル2	役員スケジュールの登録/参照が行える。(但し登録は仮登録のみ)
レベル3	役員スケジュールの参照のみが行える。
レベル4	役員スケジュールの設定された項目のみの参照が行える。
レベル5	役員スケジュールの設定された項目のみの参照が行える。
ブランク	役員はスケジュール管理内に表示されなくなる。(登録/参照は行えない)

### 5.2 スケジュール管理

管理画面上のグラフの色分けにより、スケジュールの種類が容易に認識でき、本登録されたスケジュールと、仮登録されたスケジュールを一別できる。スケジュールの内容は、マウスポインタをグラフに近づけるだけでポップアップ・ウィンドウが表示されて参照でき、さまざまな形式の出力リストでアウトプットが可能である。

また、出張などの長期にわたるスケジュールを一括で登録できる期間スケジュール機能を提供する。スケジュール管理画面を図3に示す。

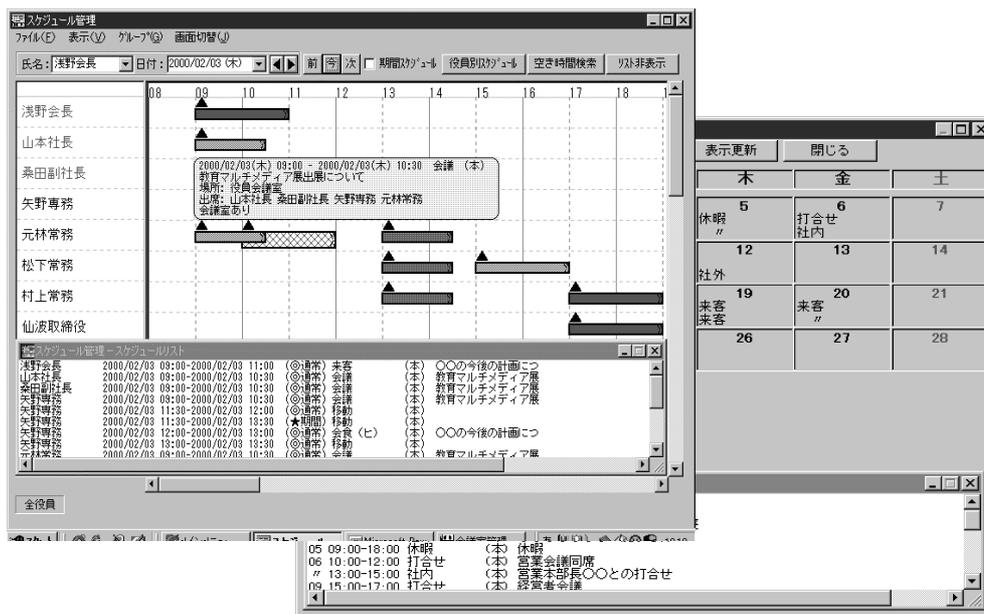


図3 スケジュール管理の画面

### 5.3 個人情報管理

お客様のお名前、勤務先、兼務先、自宅に関する情報を管理でき、役員がお客様情報を効率的に共有できる。

また、関連する喪中期間や逝去日の管理、年賀状、お中

元、お歳暮等の送付 / 受領履歴も管理でき、お客様の情報ごとにセキュリティを付加できる。個人情報管理の画面を図4に示す。

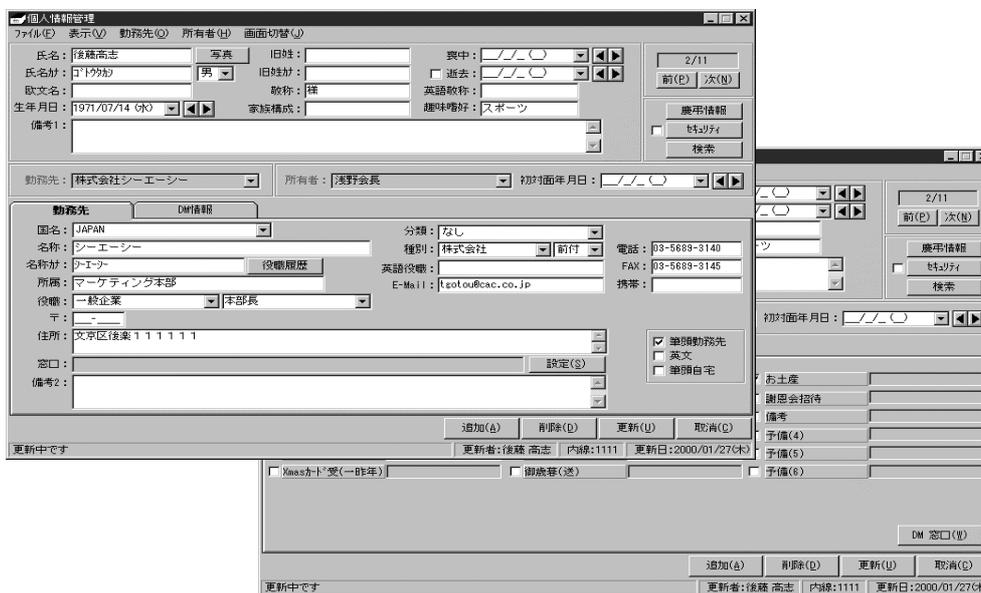


図4 個人情報管理の画面

### 5.4 慶弔贈答管理

慶事、弔事、贈答の各項目を同一画面で管理することができ、スケジュールや個人情報管理とリンクすることで、さらに細かい検索が可能である。慶弔贈答管理の画面を図5に示す。

### 5.5 接待場所管理

接待に利用する、さまざまな場所の情報を管理でき、イメージ画像の取り込みも可能である。また、スケジュール登録と連動しているため、利用履歴を蓄積することも可能である。

慶弔・贈答管理

ファイル(F) 表示(V) 画面切替(L)

種別: 逝去 ※ スケジュール管理より作成された慶弔情報です ※ 関連役員

件名: 通夜

処理状況  
 処理中  
 完了

6/6  
前(P) 次(N)

※ 下記の対象者は個人情報参照しています ※

**基本情報** | 行事情報 | 贈答情報

基本情報  
 逝去者: 廣瀬浩一郎 年齢: 100才  
 喪主: 廣瀬恭平 続柄: 御子息  
 死亡日: 2000/01/10 (月) 時刻: 01:00  
 宗教区分: その他 備考: 元軍人  
 担当者: 後藤

対象者情報  
 続柄: ご岳父  現役  元職 個人情報  
 対象者: 廣瀬俊典 検索  
 対象者姓: ヒロトツリ 追加  
 勤務先: 株式会社シーエーシー  
 所属: マーケティング本部  
 役職: 室長  
 〒: 電話番号: 03-5689-3140  
 住所: 文京区後楽111111  
 備考:

行事種別	日付	時刻	会場
通夜	2000/01/12	16:00	斎場

贈答種別	名義	金額	手配先	済
弔電	浅野会長、他2名			<input checked="" type="checkbox"/>
香典	浅野会長	30000		<input checked="" type="checkbox"/>
供花	浅野会長	50000	花屋	<input checked="" type="checkbox"/>

追加(A) 削除(D) 更新(U) 取消(C)

基本情報・関連役員・行事情報・贈答情報ごと更新を行います。 更新者: システム管理者 内線: 1576 更新日: 2000/01/13(木)

図5 慶弔贈答管理の画面

## 5.6 会議室管理

会議室、応接室の予約状況、および使用状況をスケジュール管理画面と同様のイメージで確認できる。役員とのスケジュールと連動して会議室の予約を行なうことができ、さらに来訪者管理に連動して来訪者の登録まで行える。

## 5.7 来訪者管理

来訪予定者、および現時点での来訪者の状況を把握することができるため、リアルタイムで効率的な対応が可能である。スケジュール管理、会議室管理からの登録が可能である。

## 5.8 配車管理

スケジュールと連動した配車が可能となり、ドライバーのスケジュールを効率的に管理できる。各拠点ごとに関連

した役員のスケジュール参照することが可能である。

## 5.9 To Do リスト

役員と秘書、または秘書間の業務指示や確認事項などの記録と進捗状況を To Do リストとして管理できる。

## 5.10 印刷書式設定

個人情報管理、接待場所管理、慶弔/贈答管理、入室管理から出力する帳票の印刷書式を容易に設定でき、帳票を自由に作成することが可能である。

## 5.11 Olive メール

Olive 利用者間で、メールや掲示板を使用したメッセージの送受信が可能となる。Oliveメールの画面を図6に示す。

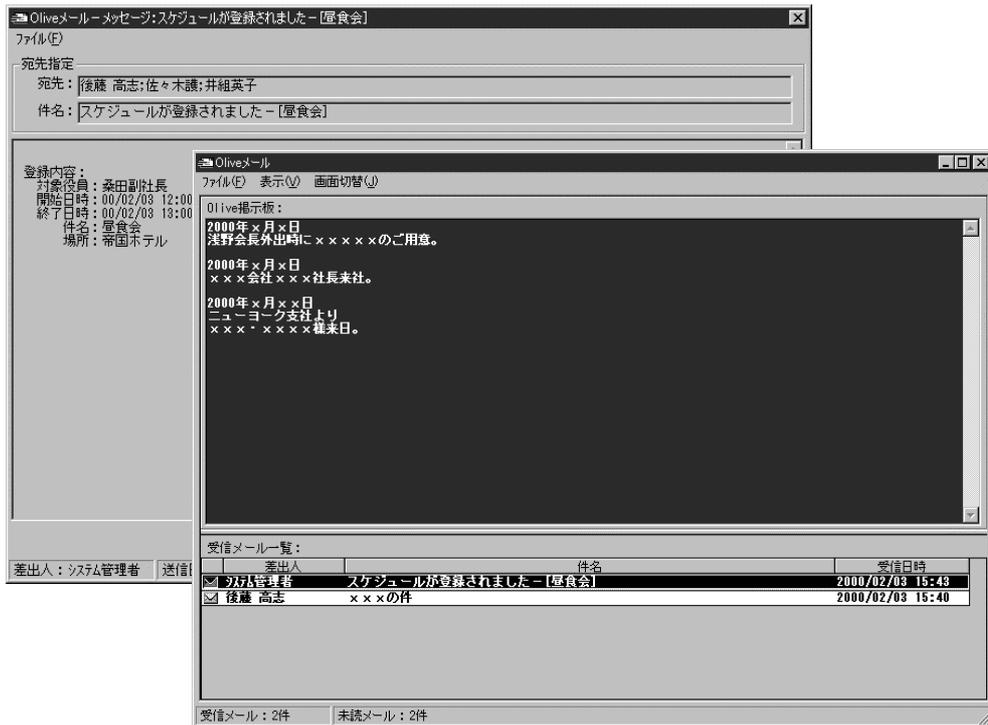


図6 Oliveメールの画面

## 6. ユーザー一覧

2000年4月現在、Oliveの導入ユーザーは31社である。主要導入顧客の一覧を表2に示す。

表2 主要導入顧客の一覧(2000年4月現在)

● 山之内製薬株式会社	● 安田火災海上保険株式会社
● 武田薬品工業株式会社	● 大東京火災海上保険株式会社
● 中外製薬株式会社	● 住友信託銀行
● 第一製薬株式会社	● 中央三井信託銀行
● KDD	● 千葉銀行
● 日本精工株式会社	● 武蔵野銀行
● 旭硝子株式会社	● 広島銀行
● サッポロビール株式会社	● アコム株式会社
● 三井金属鉱業株式会社	● いすゞ自動車株式会社
● 住友林業株式会社	● 三菱自動車工業株式会社
● カシオ計算機株式会社	● 東京急行電鉄株式会社
● 大成建設株式会社	● 川崎汽船株式会社
● 株式会社読売広告社	● 株式会社商船三井
● 富士通株式会社	● 石川島播磨重工業株式会社
● 理想科学工業株式会社	(順不同)
● 沖縄電力	
● 三井不動産株式会社	

## 7. おわりに

今後の強化予定としては、Web化等による最新のIT環境への対応を実現し、この分野でのデファクト・スタンダード・ソフトとしての地位を確立することである。

また当社の重点戦略である、バリューチェーン・ビジネスの展開が図れる顧客への浸透へ、積極的に対応して行きたい。Oliveの今後にご期待いただきたい。